

議事要旨

H30 年度 第 1 回千葉県移動性向上プロジェクト委員会

開催日時：平成 30 年 7 月 30 日（月） 10:30～11:30

開催場所：千葉国道事務所 202 会議室

委員会出席	千葉工業大学 創造工学部 教授	赤羽 弘和（委員長）
	千葉県警察本部 交通部 交通総務課	清水 貞（代理出席）
	千葉県警察本部 交通部 交通規制課 課長補佐	高津 功（代理出席）
	一般社団法人 千葉県商工会議所連合会 事務局長	梶村 一郎（欠席）
	一般社団法人 千葉県トラック協会 専務理事	高安 茂
	一般社団法人 千葉県バス協会 専務理事	成田 斉（欠席）
	株式会社 千葉日報社 クロスメディア局長	松本 祥彦
	公益社団法人 千葉県観光物産協会 事務局長	能美 勝博（代理出席）
	東日本高速道路 株式会社 千葉管理事務所 所長	川田 敏
	東日本高速道路 株式会社 市原管理事務所 所長	鎌田 文幸
	東日本高速道路 株式会社 千葉工事事務所 所長	木曾 伸一
	千葉市 建設局 道路部 部長	村川 安秀
	千葉市 消防局 警防部 救急課 課長	中村 昭夫（代理出席）
	千葉県 県土整備部 道路整備課 課長	相澤 忠利
	千葉県 県土整備部 道路計画課 課長	菰田 直典
	国土交通省 関東運輸局 千葉運輸支局 首席運輸企画専門官	宮澤 豊（代理出席）
	国土交通省 関東地方整備局 首都国道事務所 所長	甲斐 一洋
	国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所 所長	八尾 光洋

■ 「2. 前回委員会での主な指摘事項とその対応」について（p2～6）

- ・右折車と直進車の速度相関（p3～4）については、今回の分析で右折レーンからのみ出しによる直進車の阻害状況が明らかになった事から、今後の渋滞分析に活用すべきとの意見が委員長より出された。
- ・評価区間長の確認（p5～6）については、現在の評価区間の設定方法（交差点直近の DRM 区間）では、評価区間が短すぎて信号待ちの影響が過大評価される場合がある。このため、1～2km 程度の評価区間を確保した上で分析を実施すべきではないかとの意見が委員長及び委員から出された。

■ 「4. 対策実施箇所の効果確認」について（p10～16）

- ・対策実施後 3 指標に該当しない木下駅西踏切、境田交差点の 2 箇所を主要渋滞箇所から除外する事で了解を得た。
- ・R357 若松交差点の対策（p15～16）については、今回の右折レーン延伸以外にも停止線前出しによる交差点のコンパクト化や交通島の設置、信号制御の見直し等の対策メニューが考えられる事から、今後も分析や検討を行うべきとの意見が委員長及び委員から出された。

■ 「5. 3 指標に該当しない未対策箇所の除外」について（p21）

- ・3 年連続で 3 指標に該当しない 6 つの未対策箇所を主要渋滞箇所から除外する事で了解を得た。
- ・要因分析及び継続したモニタリングの実施を条件として、3 指標に該当しない期間を 3 年連続から 2 年連続に短縮する事で了解を得た。
- ・未対策箇所の除外にあたっては、バイパス整備による交通転換や交通量の自然減少等、改善要因を分析すべきとの意見が委員長及び委員から出された。

■ 「6. 今後の渋滞対策の進め方」について（p22～24）

- ・R16 千葉北警察署前交差点のピンポイント対策（p24）については、交差する市道側の速度低下も著しい事から右折レーンの延伸に合わせて信号制御の見直しも検討したいとの意見が委員から出された。

以上